

会 議 報 告 書	
会 議 名	令和3年度第1回草津市社会教育委員会議
日 時	自 10時00分 令和3年7月1日(木) 至 11時30分
場 所	草津市役所4階 行政委員会室
出 席 者	委員：横山委員(委員長)、長橋委員(副委員長)、北川委員、藤澤委員、 内田委員、湯浅委員、山元委員、藤内委員、矢野委員、磯嶋委員、 澤村委員、中瀬委員 事務局：藤田教育長、南川部長、田中総括副部长 生涯学習課 上原課長、矢野係長、山本主査、井上主任 図書館 二井副館長 まちづくり協働課 西山課長 コミュニティ事業団 茶木グループ長 傍 聴 人：1名
会議関係書類	<input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無

1. 教育長挨拶

2. 自己紹介

出席の委員および事務局職員から自己紹介

3. 議事

1) 令和3年度 生涯学習事業について

資料1により事務局から説明

2) 今期の取組の状況について

資料3 資料4 資料4-1~3について事務局から説明

<事務局説明>

・養成講座の進捗

受講生は31名となった。

第2回目と第3回目の講座を延期した。

・受講した委員の感想

何度か絵本の読み聞かせの講座を受けているが、忘れていたこともあり、勉強になった。

講師の話が良かったので、読み聞かせが初めての方にも、良い講座だったと思う。今後も続けてほしい。

受講生が31名もいて、草津には読み聞かせに関わりたい人がたくさんいて、素晴らしいと思う。

その方達の活躍の場が市内に増えていくと良いと思う。

・実践体験の状況

現在、事務局で調整中。新型コロナウイルスの影響でボランティアの受入に慎重な施設が多いので、実施が難しい場合は読み聞かせのイベントを実施する可能性もある。

・地域活動調査の状況

地域まちづくりセンター、市社会福祉協議会、コミュニティ事業団と調整を行い、受入先の調査を進めている。

・庁内外の連携

コミュニティ事業団およびまちづくり協働課から関連する事業について説明。

(コミュニティ事業団)

コミュニティ事業団は草津市協働のまちづくり条例において中間支援組織と位置づけられ、様々なまちづくりの支援を行っている。具体的にはボランティアを希望する方を団体に繋いだり、組織化の支援や助成金事業による支援、まちづくり相談などを行うことが出来る。

今回、講座を受講した方が少しずつ活動に参加していき、徐々に公共性や自発性を持った活動を行う形に成長していく手助けができればと思う。

(まちづくり協働課)

5月に市民総合交流センターキラリエの供用を開始し、市民団体にキラリエサポーターとして登録をいただいている。読み聞かせの団体、文化団体、健康づくりに関わる団体等、様々な団体に登録いただいているが、それらの団体をどのように市民の力を活かしたまちづくりに繋げていくかが課題と考えている。そのきっかけづくりとしてお互い様プロジェクトの実施を計画している。お互い様プロジェクトはある課題に対して、キラリエサポーターが議論して、お互いの強みを活かして解決方法を考え、実行する、その議論の場を用意することをイメージしている。

様々な活動団体が課題を共有し、その課題解決のための活動を実践する、そのようなかたちで付加価値の高い市民活動に発展するよう促していきたい。

・生涯学習課の事業

養成講座受講生にゆうゆうびとバンク登録を促していきたい。また、バンク登録者が参加するゆうゆうびとのつどいを交流・情報交換の場とし、登録者の活動が広がるよう仕向きたい。

また、絵本の読み聞かせの事業ではないが、地域協働合校にボランティアとして関わっていただくことで、活動の幅が広がれば良いと考えている。

(各委員からの意見)

(委員長)

過去の社会教育委員会議で、公民館が地域まちづくりセンターに移行していく中で、地域を担う人材をつくる仕組みを考えてきたことが今期の取組の背景になっており、読書活動にテーマを絞り、その中で、どのように人材を養成して、どのように地域に繋げていくかを検証している。

コミュニティ事業団やまちづくり協働課からも説明をいただいたが、目指しているところは同じだと思う。市民目線で考えるとどの部局に予算が付いているかは関係がないことで、地域にとって必要な学びの機会が提供されているかどうかが一番大切なポイントである。その学びが体系立てられていないところが行政の現状だと思う。委員の皆さんからも御意見を賜りたい。

(A 委員)

いま子どもたちの間で格差が広がっていると感じており、まちづくり協議会が果たす役割は大きい。また、地域のなかでも、縦割りではなく横に繋がって事業を展開していく必要があると考えている。今期のテーマは子どもの読書活動ということだが、読み聞かせを通して、子ども達に何を考えさせたいのか、あるいは子ども達にどんな社会を作っていってほしいのか、そこを深く考えることが現場の役割だと思っている。

(B 委員)

民生委員・児童委員の活動の中では、参加者の学区を区切らず受け入れているところもあるので、そのあたりも調べてほしい。また、学区によっては赤ちゃん訪問も行っているため、その活動につなげていくことも出来ると思う。

(C 委員)

ゆうゆうびとバンク・つながりのめ・キラリエサポーター等いろいろなリストがある。それぞれに目的や主旨が少しずつ異なるとは思いますが、ひとつにまとめていくべきだと思う。

また、ボランティアという言葉も有償なのか無償なのか曖昧な部分が多いので、それも含めて整理していかないといけないと思う。

(D 委員)

ゆうゆうびとバンクのことは知らなかった。市民へもっと周知していくと良いと思う。

(E 委員)

それぞれの小中学校で地域の特色・特性を活かして地域協働合校に取り組んでいる。昨年度は新型コロナウイルスの影響で体験活動が十分に実施できなかったが、今年度は積極的に取り組んでいきたいと思っている。

(F 委員)

私が代表を務めるある団体では、慣例で代表者が学区の社会福祉協議会の理事になることになっていたが、同じ人ばかりが続けることはよくないので、今年から仕組みを変えた。団体の活動でも、役員だけが活動するのではなく、実行委員会形式で関わる人を増やす工夫をしている。今回社会教育委員に関わることが出来て、知れたこともたくさんあったので、どんな場面でも「関わる」ということが大切だと思う。

(G 委員)

今回の養成講座を受けた方が、ゆうゆうびとバンク等に登録した後も、事務局がフォローを続けて行くことが大切だと思う。

(H 委員)

今年から学校図書館のボランティアとして活動を始めた。所属している小学校では今年度から高学年への読み聞かせを始めたが、低学年と比べて子どもたちの反応が薄くなるので、高学年への読み聞かせを希望するスタッフは不足しているところも多いと思う。また、参加する人が増えると、読み聞かせ出来る絵本の種類も増えるので、子ども達にとっても良いと思う。

(I 委員)

団体のリストアップだが、今回の資料以外にも活動をされている団体はたくさんあるので、大変だと思うが、もっと調査を進めてほしい。

(J 委員)

「絵本に興味がある人をどれだけ地域に繋げられるか」ということと「絵本が既に地域で活動している人のツールになること」という点に注意して事務局の説明を聞いた。他部署との連携も模索されており、少しずつその方向で事業を動かそうとしている様子が見えてよかった。

また、私も実際に地域で様々な活動を行っているが、福祉・地域づくり・教育などの境界がなくなってきたように感じている。市役所でもいろいろな部署の方と話をしたが、言っていることは同じ。まちづくり協働課からの話として紹介いただいたラウンドテーブルの話や生涯学習課の取組もよい

話と感じるし、考え方の部分は整っていると思う。あとは、どれだけ本気で取り組めるのかという事だ
と思う。

(副委員長)

さまざまな活動が地域で実践されているが、目的を共有できる活動は多々あると思う。それぞれの
団体が協力し合える部分を見いだせるような仕組みは必要だろうし、ニーズもあると思う。団体の情
報の整理をしたり、アクセシビリティを高めていく際には、そのような目的をもって整理していけると
良いと思う。

(委員長)

協働というのは、「公・共・私」の役割分担を明確にしていくことである。その基本的な整理ができて
いないため、多くの自治体で協働施策は行き詰っているのだと思う。例えば地域まちづくりセンタ
ーへの交付金においても、役割分担を明確にし、交付金の使途や意図を適切に市民に示していく
必要がある。また、行政改革を行っていく上でも、協働という考え方は重要。「社会教育は社会教
育担当課」「まちづくりはまちづくり担当課」「行革は行革担当課」といった縦割りではなく、当該地
域に対する市役所各課による支援策を把握し、課の壁を超えて、補助金等の統廃合や、スクラップ
&ビルド、あるいは事業の共同実施等を進めることが、限られた予算を効果的に配分していくこと
や、協働の支援につながっていくのである。

4. 質疑

(A 委員)

地域協働合校推進事業の予算が減額になっている背景を教えてください。

(事務局)

新型コロナウイルスの影響等により、市の財政状況が例年になく悪化しており、限られた財源で
予算を編成する必要がある。市全体でそれぞれの事業の見直しを行っており、地域協働合校推
進事業についても内容を見直して、予算編成を行ったため、昨年度から減額での予算措置となっ
た。

(I 委員)

地域活動の団体調査で、全ての学校図書館ボランティアから回答がないのはなぜか。

(事務局)

資料4-1の照会は地域まちづくりセンターに対して行ったものであり、センターによって回答に
ばらつきがあるため、すべての学校図書館ボランティアが掲載されていない。

様々な活動を広く把握していくため、学校等に対しても今後、ボランティアの受入が可能かどうか
調査を行う。

(C 委員)

教育振興基本計画策定の際に、SDGsの観点で事業を整理していたと思う。この取組についてもSDGsのどの部分を担っているのかを整理して、関わる人がSDGsの目線でも目的意識をもって取り組んでいけるようにすると良いと思う。

(事務局)

検討する。

5. 事務連絡

各種研修会について事務局から委員に説明。

6. 閉会

(事務局)

貴重な御意見をありがとうございます。大変難しい事業ではあるが、関係部署それぞれでの役割分担も考えながら連携して事業に取り組んでいきたい。